



64×159.5

30. 算額 明治31年 (1898) 井出 立石不動尊堂 (目録 5)

和算家たちは難問にいどみ解答が得られた時、一層の上達を祈願し、また自分の実力を誇示して、その難問と解答を額に書いて奉納することが江戸中期頃より盛んになった。町内には明治期・大正期のものが残されている。

千時明治三十有一年第三月吉日

奉 額 不 動 尊

双葉郡竜田村
 大字井出字住人
 算師 猪狩権次

同郡同村
 習慣者 小磯藤吉
 同 遠藤藤三郎
 同 大和田要
 同 鈴木勝江
 同 鈴木清次
 同 仲野豊蔵
 同 鈴木鉄助
 同 猪狩政之助
 同 大和田静
 同 遠藤宇右衛
 同 猪狩 寿
 同 塩井幸吉
 同 鈴木高之助
 同 遠藤清市郎
 同 仲野清三郎
 同 遠藤佐助
 同 遠藤甚之助
 同 大和田助次郎
 同 松本亀之助
 同 新妻熊之助
 同 遠藤伝助
 同 小磯金作
 同 猪狩小源太
 同 横田忠次郎
 同 柴田清治



49×70

31. 算額 大正10年 (1921)
波倉 稻荷神社 (目録 1)

北田神社に奉納してある算額と同じく、富岡出身の和算家関根熊吉の波倉地区門下生九名で、難問に取り組み、みごと解答ができた喜びを絵馬にした。